

# 洛友會會報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

## 混乱時の随想

洛友会副会長  
京大名誉教授 林 重 憲

洛友会々報が近く発刊されるが

何か一つ書いて欲しいと、山本幹事から言われたのが今から三週間ばかり以前のこと、ところがダダイ私の思想そのものが、貧弱きまるものである上に、世界は混沌たる動乱の巷を彷徨しており、ベトナム戦争の行方すら予想することは出来ず、また世界通貨として自他共に許してきたポンド・ドルの二つの世界的通貨は、その資格さえも失ないかけるにいたり、ゴールドラッシュといった非現実的な用語さえもうまれて欧米を席卷するに至った。ところが、これとてもヤミ屋的用語にとどまり金本位制ともなれば、これを裏付けする産金量は不足を来し世界経済は益々歪曲混乱したものに成るとは必至であり、今や世界はベトナム戦争その他のためと國際的通貨保有国の弱体化に破たんの様相

を露呈しつつある。

ひるがえって我が国の現状を見ると政界、官界、学界教育界の腐敗だらけには、目をおおうべきものがあり、識者等しく眉をひそめる幾多の犯罪事実が山積している状態である。このようにベラベラと、しゃべるデータは山ほどあるのではあるが、さてそのいずれを取って見ても洛友会誌の記事として全然すじが通らず、いずれもが地方の赤新聞紙が扱う三文記事の範囲を出でず、洛友会誌の投稿題材としては不適合である。

そのような次第であるので、頭脳障害にも等しい私のことであるから、洛友会誌に下手なことを書きでもしたら、それこそ大変なことになるのは必定、必ずや會員諸賢の逆鱗に触れること受けあいである。そのような次第で、外的事はともかくとして、会誌に執筆

する件だけは許してたもれと辞を低うして懇願したのであったが、山本幹事が言うには『五月中旬には洛友会の総会が開催される予定でもあり、それまでには是非、洛友会誌を発刊しておかなければならず、既に二、三の先輩の方に執筆を依頼したところ、いずれもが、都合が悪いという理由で断られてしまった。運悪く君は洛友会の事務所近くに生息している関係もあり一同相談の結果、白羽の矢をたてた。いやだろが我慢しろ』との話に、甚だケンクリカラン事とは思ったものの、引くに引かれず終い引き受けてしまったのが運のつき、サアこれからの問題である。世相は、益々混沌の度を強めて行き、ベトナム戦争の行くえすら全然予想がつかず、ジョンソン大統領始めアメリカの与党、野党の各主脳たちも、それぞれの立ち場で困りぬいている

ことでもあるし、他方我が国の教育界にも各種の混乱状態が続いており、とくに学生運動は日増しに熾烈さをきわめて行き、日本の次代の運命を背負うべき若人たちが、とくに学生層の一部と若き警官たちとが憎しみあい、その意味なき乱闘は、日本民族の発展を阻害する最大の要因ともなっている。然しながら現下、独立性をうしない外国にたよる以外に方法

なきまでに落ちぶれて終った日本の政治力をもってしては致し方ないとも言えよう。敗戦後、すでに二十年を経過し、一等国をもって自ら任じてきた日本民族としては何たるザマであるうか。今や、日本の将来はお先きマツクラの状態に陥ってしまった。

次に学のエリートの養成機関として自他ともゆるゆるして来た東京大学と京都大学の今年の卒業式に又々不可解千万な異変がほっばつした。それは今、日本の医学界で問題になっている登録医制度に関連するもので、大学全体の問題ではなかったのであったが、東京神田の学士会館で開かれた東京大学の評議会に、東大の学生群がなだれこんで、東京大学の学長をつるしあげ、これを激怒せしめ、各学部長のとりなしで東大の卒業式は各学部に於ける部分的のものに化すると云う異例の形で、何とかおさまった。これに反して京都大学の卒業式は形だけは本部の講堂で行なわれはしたものの式場はかなり困乱をきわめ不快きわまるものであったものとか聞き及んでいる。ただし東大、京大いずれの場合にあっても医学部の卒業生の出席は皆無の状態と云う異常事態をとってしまった。

また、大学によっては、男子学生が学生運動その他のゴタゴタのため勉学、不振に陥ったためであろうか女子学生におさえられて総代の地位を女子学生にうばわれ、各学部の総代に振りそで姿の女子学生があらわれ、終いにジャーナリズムはこれをもって女子学生の天国と揶揄し、暗に男子学生のダラシなさをあざわらうことになった。無論、このような事態は単に一时的な異常現象に過ぎず、これをもって男子の頭脳が女子のそれに比して劣るという例証になるとは思いたくない。またそうでないことを望むものではあるが、なんといつても腹をたたいて笑ってすまず問題ではないと思う。男子学生よだらしがないぞ、しっかりせい。と激励したくなる次第である。

このような、昔は決して見られなかった各種の異常現象が陸続として発生し、昔そだったわれら老人どもを戸まどわせるのである。重ねて借問する。このような日本の行きかたは、このままで果してよいのであろうか。エリート大学にも昔日の面影なく、その実力は完全に失墜しきつたということができるのか。これを昔日の姿に立ちもどらせるためには、まず青年男子学生層の精神力の復帰が第一要件であって、まず学生層に夢と正義感を高ようし、不純と悪をにくむ道義心をばぐませることこそ目下の急務である。これに対し

また、大学によっては、男子学生が学生運動その他のゴタゴタのため勉学、不振に陥ったためであろうか女子学生におさえられて総代の地位を女子学生にうばわれ、各学部の総代に振りそで姿の女子学生があらわれ、終いにジャーナリズムはこれをもって女子学生の天国と揶揄し、暗に男子学生のダラシなさをあざわらうことになった。無論、このような事態は単に一时的な異常現象に過ぎず、これをもって男子の頭脳が女子のそれに比して劣るという例証になるとは思いたくない。またそうでないことを望むものではあるが、なんといつても腹をたたいて笑ってすまず問題ではないと思う。男子学生よだらしがないぞ、しっかりせい。と激励したくなる次第である。

また、大学によっては、男子学生が学生運動その他のゴタゴタのため勉学、不振に陥ったためであろうか女子学生におさえられて総代の地位を女子学生にうばわれ、各学部の総代に振りそで姿の女子学生があらわれ、終いにジャーナリズムはこれをもって女子学生の天国と揶揄し、暗に男子学生のダラシなさをあざわらうことになった。無論、このような事態は単に一时的な異常現象に過ぎず、これをもって男子の頭脳が女子のそれに比して劣るという例証になるとは思いたくない。またそうでないことを望むものではあるが、なんといつても腹をたたいて笑ってすまず問題ではないと思う。男子学生よだらしがないぞ、しっかりせい。と激励したくなる次第である。

ては現下の日本は正に不適當であるのである。あまりにも世には不徳がみなぎり、救うに道すらないのであろうか。

このような駄文をまきぐりながら、紙面をけがして行く間にドンドン時はたつて行き、とうとうエイプリル・フールの四月一日になって終った。今日は洛友会報の記事をどける当日である。何が何でも何とかしなければならぬ。天気晴朗なれども、心は重くさながら屠所に引かれ行く羊のように、シオシオとテレビジョンのスイッチをひねって見たところ、トンデもないニュースがごろごろとできた。ジョンソン・アメリカ大統領が自国と世界の輿論とにおされ、他方北ベトナムの戦力にうちひしがれたのもあろうか、北爆停止の声明を行ない、あまつさえ今秋行なわれる米大統領の選挙への出馬辞退の公的発表をしたのであった。

正に晴天の霹靂と言おうか。文字通り四月馬鹿にされて終ったのではないか、晒然として終ったのであったが、これは嘘でもなく、今迄の世界の大勢とアメリカの国家輿論に照らしてみても、ある程度予想できた事ではあったが、よくもまあこのように早く英断を下して、フェアー・プレイを演じたジョンソン大統領の私利私欲なき

教知に対してアメリカ合衆国のため、又世界人道のために限りない敬意と尊敬の念を禁じえない。同時に又、私は失礼とは存ずるが、自党の党利、党略にのみ汲々として、日本国全体の進むべき道すら見うしないつづめるかのように見える我が国の政治にたずさわる人達の猛省をうながしたいと思う。本日、四月一日のジョンソン声明だけでもってベトナム戦争が完全に終結したと断じることが、時期尚早であらう。如何となればジョンソン・アメリカ大統領の声明には前提条件がつけられており、非武装地帯の北部地域だけは爆撃の許容地帯に残されており、今後は北ベトナムと米國、又これに関連する各国と、南ベトナムとの考え方如何にのこされた問題があるからである。波乱曲折と幾多の難波の経路をたどって初めて平和の彼岸に到達することができるであらうが、今やアメリカ大統領によってベトナム戦争の終結希望の骰子(サイコロ)が投げられたのである、この目的は近くなからずや実現されることであらう。われわれは、この観点にたつて新しく生まれるであろう世界観にもつづいて新日本の真の建設のために邁進すべきではなからうか。

(昭和43年4月1日記)

# 随 想 宇 宙 科 学

京大教授 前田憲一  
昭和七年卒

日本の宇宙科学はここ九一年、実験の面で足ぶみをしている。鹿児島内の浦に完備したロケット発射場を持ちながら休眠を余儀なくされている。主として宮崎県漁業組合の反対によるという話で政府機関や政界からの再三の交渉もまだ解決を見るにいたっていない。今年の五月にはロケットや人工衛星による宇宙空間科学の国際会議が二週間にわたって東京で開かれる予定で目下準備がいそがれている。私は現在右記の二つのことに関係しているが、毎年開かれる国際会議に過去一年間の日本の宇宙空間科学の実績をまとめて発表して来た者として、最近一年間のブランクは誠に頭の痛いことである。

この空白期に私たちはいろいろと考えさせられることがあった。この際漁業組合を納得させるため政府から多額の補償金を出してもらうに値するだけの研究を、はたしてわれわれはしようとしているだろうか。この疑問にずばり回答を出すことは困難であるが、これに関連してわれわれ大学人のやっている研究について考えて見た。科学史や技術史を学んだ人々は、研究が基礎的に深ければ深いほど、その応用面は広く、人間生活により大きな影響をおよぼすものだといっている。大学における科学研究はこのような自覚や使命観の上にたつたもので、自然界の法則を究め人間の知見を深めること自体を使命とする。これの好例の一つが宇宙科学の研究であらう。宇宙は秘められた体系をもつ一大実験室である。重力、相対論、粒子加速、核融合、元素合成、化学反応、生命の起源、宇宙論などを自然という一つの論理体系のなかに包含したもので、過去の多くの自然法則がこの実験室を用いて見いだされた。右に列記したいいくつかの重要テーマは現在のわれわれの知識で言ったままで、将来まだどのような重大な秘密が蔵されているかは想像の外にある。ロケットや人工衛星の出現によって宇宙科学は画期的な進展をみせた。われわれは地球周辺の空間

と天体に直接ふれることができ、また下層大気のしゃへいのために観測できなかった遠い天体やその空間からの情報をつかむこともできるようになった。人工衛星を二〇〇新以下の高度でまわすと極端に寿命が短くなるので、科学目的では行なわれぬ。日本のロケットによるこれまでの研究は、このギャップともいうべき空間をきめこまかく実測し検討して数多くの成果を挙げて来たもので、これが日本ロケット研究の一大特徴といえる。この研究を通じて得た貴重な経験を土台に特別な使命を持ったいくつかの衛星を慎重に計画し、米ソの従来成果のなかには見いだされぬもの、または従来成果に必ずプラスになるような成果をあげようというものが、将来の日本の人工衛星である。米ソにおかれてスタートするだけに企画の段階でいくつかの苦悩を味わっている。一般国民はもとより、政府や学術会議のなかにさえも、これらの点でまだじゅうぶんな理解がえられていないと言えない状態であるが、この会報を通じて洛友会の皆様のご理解を得たいと思っ

(四三、三、一三)

☆ ☆ ☆

# 教室だより

久しぶりに教室の現況をご報告  
します。

## ① 教 官

昨年三月末、林重憲教授が定年  
退官され名誉教授になられました  
前後に教官にも新任、昇任等か  
りの異動がありましたので電気系  
三教室並びに関連部門を構成す  
る教官を紹介いたします。(昭  
和43年3月現在)

なお木嶋教授は来年2月末まで  
長期文部省在外研究員としてベ  
ンシルバニア大学に出張中です。

### ○電気工学教室(明治30年創設) 現在五講座

一、電気機器・自動制御・非線  
形回路

- 教授 林 千博(9)
- 助教授 西川 稔一(30)
- 講師 上田 皖亮(34)
- 一、プラズマの基礎と応用・半  
導体応用等の電気応用
- 教授 大谷 泰之(13)

一、情報処理・電気通信工学)  
電算機を含む総合電気通信網  
の問題点等)

- 教授 坂井 利之(22)
- 助教授 堂下 修司(33)

講師 長尾 真(34)

一、電力系統の潮流・故障・安  
定度・放電・破壊現象

- 教授 林 宗明(27)
- 助教授 相馬 敬司(31)
- 一、電気磁気学・電磁流体(M  
HD)・発電・過渡現象・電気  
工学
- 教授 卯本 重郎(28)

### ○電子工学教室(昭和29年発足) 現在五講座

一、電離層とそれにつながる磁  
気圏に関する研究(理論的並  
らびにロケットを含む実験的  
研究)

- 教授 前田 憲一(7)
- 助教授 木村 磐根(30)
- 講師 鷹尾 和昭(34)
- 一、高周波工学、電子回路
- 教授 池上 淳一(18)
- 助教授 中島 将光(35)
- 講師 小倉 久直(31)
- 一、自動制御の理論とそのため  
の電子装置に関する研究
- 教授 近藤 文治(18)
- 助教授 安藤 和昭(32)
- 一、プラズマ物性・気中放電・  
電子計測
- 教授 板谷 良平(28)

一、電子物理学講座

### ○電気工学第2教室(昭和36年発 足)現在八講座

- 教授 津田 孝夫(32)
- 一、電子計算機システム・電気

## 磁気学

教授 清野 武(12)

助教授 矢島 脩三(31)

一、電気材料・半導体・強誘電  
体・固体物理

- 教授 田中 哲郎(14)
- 助教授 佐々木昭夫(30)
- 一、電力系統の運用と計画・絶  
縁設計・高電圧工学・送配電  
工学
- 教授 上之園親佐(18)
- 助教授 岡田 隆夫(30)

一、放電工学(MHD発電・熱  
電子発電等)照明工学

- 教授 阪口 志雄(21)
- 一、電子装置(マイクロ波電子  
管・固体素子等・能動素子)
- 教授 高木 俊宜(22)
- 一、電気回路網・電力系統・断  
続回路・過渡現象の解析
- 教授 木嶋 昭(26)
- 助教授 小沢 孝夫(32)

一、電気材料(特にトランスデ  
ューサ材料)超音波工学

- 教授 川端 昭(28)
- 一、電磁機械構成学講座
- 教授 空 席
- 共通講座(昭和37年創設)七講  
座の内電気関係一講座
- 一、電気溶接・他学科学学生に  
対する一般電気工学
- 教授 浮田 勇(17)
- 助教授 安倍 稔(31)

## (付属研究施設)

○オートメーション研究施設(昭  
和34年設置)

一、制御工学・生体工学

教授 桑原 道義(23)

○電離層研究施設(昭和36年設置)

一、超高層電波工学・量子エ  
レクトロニクス

教授 小川徹(京大理24)

○超高温プラズマ研究施設(昭和  
41年設置)

一、核融合・高温プラズマ物理  
学

教授 宇尾 光治(27)

○工学研究所(中央実験所を母体  
として昭和16年発足)

(八部門の内、関係深い部門の  
み列記)

一、原子炉の最適制御・MHD  
発電・原子力発電

教授 服部 嘉雄(23)

一、原子炉の動特性制御・原子  
力発電

教授 若林 二郎(26)

助教授 星野 力(35)

## (その他)

○京都大学大型計算機センター(建  
設本部)

一、計算機及び関連施設的设计  
・運営・開発等に関する検討

助教授 星野 聡(29)

〃 西尾英之助(34)

(注) 各教官の専門分野は研  
究分野、担当分野の概略を示  
すもので講座名とは必ずしも  
一致していません。

以上の表からわかりますように  
電気教室関係の教官は教授22名  
助教授・講師22名、合計44名に  
及び電子工学教室発足前(昭和  
28年ごろ)の教授7名、助教授  
講師10名、合計17名に比べると  
今昔の感一しおであります。

## ② 学 生

学生は電気系として135名(電気  
50名、電子35名、電25名)を募  
集し入学許可後、分属を決めてい  
ます。前期2年の教養課程から後  
期2年の専門課程へは必要単位を  
修得した者のみ進学を認め、同様  
に専門課程の中でも、それぞれ規  
準を定めて指導しています。その  
結果、昭和42年4月には3回生で  
留年となったものが30%に達しま  
した。また卒業時では今春の卒業  
生118名中追試験後卒業確定者が約30  
%であります。

